

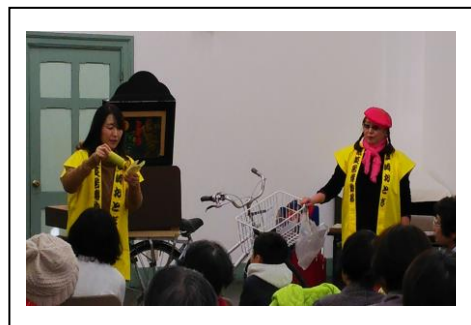
平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	懐かしくて新しい「紙芝居のさと」づくり
事業主体 (連絡先)	信州須坂紙芝居のさとプロジェクト 市立須坂図書館 TEL026(245)0784
事業区分	③教育及び文化の振興に関する事業 ⑧その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,196,972 円(うち支援金:957,000 円)

事業内容

紙芝居の盛んな須坂市にありながら、須坂市立博物館に収蔵されている昭和の貴重な紙芝居のことは知られていなかった。当市出身の街頭紙芝居最後の絵元・塩崎源一郎が寄贈した、それらの紙芝居を複製して、市立須坂図書館で貸し出し、市民が日常的に使って楽しむことにより、郷土の先人・塩崎の偉業を伝える。

博物館の収蔵品を市民が力を合わせて複製し、「使える文化財」として次世代に伝えていく。紙芝居ボランティアのネットワークを構築し、生きがいを求めるシニア世代には、研修と活躍の場を提供する。紙芝居をツールに、世代を越えた交流で心のふれあいを深め、紙芝居の文化薫る郷土を誇りに思う市民を育てる。



三邑会による
「ほんまもの紙芝居」
楽しい実技講習

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 須坂市立博物館の協力と三邑会の監修により、忠実なレプリカ(複製)が完成した。塩崎の弟子と市民によって、200人の市民の前で上演され、「使える文化財」を印象づけた。
- ② 複製された紙芝居をみることで、塩崎源一郎の存在を知った市民が、紙芝居の盛んな郷土との不思議な縁を感じ、紙芝居は、ふるさととは切っても切れないたいせつな文化だと気づいた。
- ③ レプリカ作成を機に須坂市近郊で活動する紙芝居団体・個人や市民が集まり、紙芝居愛好者のネットワークができた。塩崎の弟子の紙芝居師を招いて実技指導を受けるなど、大阪ともつながることができた。
- ④ 小・中学校の「信州型コミュニティスクール」や、高等学校の「信州学」などに紙芝居を取り入れるところが増え、世代を超えた交流が盛んに行われるようになった。
- ⑤ 生きがいを求めるシニア世代が、子ども時代に親しんだ街頭紙芝居を、こんどは自分が演じ手となって地域で活動しはじめた。当プロジェクトへの参加者もふえている。

【目標・ねらい】

- ① 博物館に眠る紙芝居を複製して使えるようにすること。
- ② 塩崎源一郎さんの偉業を伝え、郷土愛をはぐくむこと。
- ③ 紙芝居団体のネットワークを構築すること。
- ④ 紙芝居文化を醸成し、郷土に誇りを持つ市民を育てる。
- ⑤ 生きがいを求めるシニアに研修と活躍の場を与える。

※自己評価【 A 】

【理由】

市民が力をあわせて完成させたレプリカは、大勢の市民が見守るなか塩崎の弟子と市民によって上演された。あちこちで肩寄せ合って紙芝居を楽しむ風景が見られ、「紙芝居のさと」が誕生した。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

紙芝居文化を醸成し演じ手を育成する事業、特に世代を超えた交流に積極的に取り組んでいく。
須坂市社会福祉協議会や長野県長寿社会開発センター等と連携し、シニア世代の活躍や、介護福祉施設への派遣を行えるようシステムを構築していく。ひきつぎ昭和の貴重な紙芝居の複製と普及に努め、紙芝居をツールに、明るくあたたかいまちをつくっていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある